

[宇宙への芸術的アプローチ]共同研究報告会 宇宙のこころ、地球のこころ

人類がはじめて宇宙に持つ恒久的な活動拠点である国際宇宙ステーション (ISS) は、自然科学・工学分野のさらなる研究開発を促すだけでなく、科学技術と芸術そして人文諸科学の“総合”を通じて、地球の生命と文明に対する新たな視点や宇宙時代における人類の新たな自然観・生命観を形成していく契機になると思われます。私たち「宇宙への芸術的アプローチ (AAS=Artistic Approaches to Space)」研究グループは、それを促進する一つの方法として、“MUSE計画”を実行しています。この計画は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) および宇宙飛行士の方々と連携して、宇宙における芸術表現の意義と可能性、条件と方法を研究し、ISSの日本の実験モジュール「きぼう」を核とした宇宙環境における芸術プロジェクトの実現をめざして、具体的な提案と創作実践を行う共同研究プロジェクトです。微小重力や閉鎖環境、地球や宇宙に開かれた新たな視野という宇宙環境の特性は、私たちの感覚や知覚、認識や価値観を変え、リアリティを変容させ、人間の生活様式や行動の変化を導くでしょう。それに対応して、人間の芸術表現やコミュニケーションの意義を原点に立ちかえって検討し、知性と感性の新たな結びつきの中から、宇宙で活動する人々にとってだけでなく、地上に生きるわれわれにとっても意義ある宇宙文化の創造を探ることが求められます。今回、JAXAの宇宙飛行士である星出氏を迎え、これまでのJAXAとの共同研究についての報告会を行います。

プログラム

開会 14:00

講演 14:20-14:50

星出彰彦氏：宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙飛行士

研究報告 15:00-16:00

微小重力環境の「ライナスの毛布」—security blanket—

宇宙における居住環境について

微小重力下における液状物質の造形実験

「手にとる宇宙」

「宇宙庭」

KOKORO Project ワークショップ

ディスカッション16:20-17:20

「宇宙のこころ、地球のこころ」



星出彰彦：宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙飛行士

主催：京都市立芸術大学、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

2003年12月20日[土] 14:00—17:20

京都市立芸術大学大学会館 入場無料

京都市西京区大枝沓掛町13-6 TEL：教務課 075-334-2220

